



基準日 2015年8月31日付

基準価額の推移



分配実績

第1期 (2014年12月18日)
0円

基準価額の騰落率

1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1年	設定来
▲8.68%	▲8.64%	2.73%	14.11%	29.46%

運用方針

①5～10年の中期的な視点で【変化】を捉えます

”変化し始めた企業”、”変化にチャレンジする企業”を中心に株価が割安と判断した企業に投資をします。

②50銘柄程度に厳選投資を行います

当ファンドでは50銘柄程度に厳選投資を行います。大型株から小型株までを投資対象とします。

一方で、50銘柄程度あれば分散効果も十分得られると考えています。

※ボトムアップ・アプローチを重視し、ベンチマークは設けません。

③収益を狙うタイミングと、リスクを回避するタイミングをコントロールします

市場の下落リスクなどに基づき、株式組入比率を上げて積極的に収益を狙うタイミングと、現金等の比率を上げてリスクを回避するタイミングをコントロールすることを目指します。

※株式への投資は、信託財産の50%超(100%～30%の範囲内)を基本とします。

ファンドのデータ

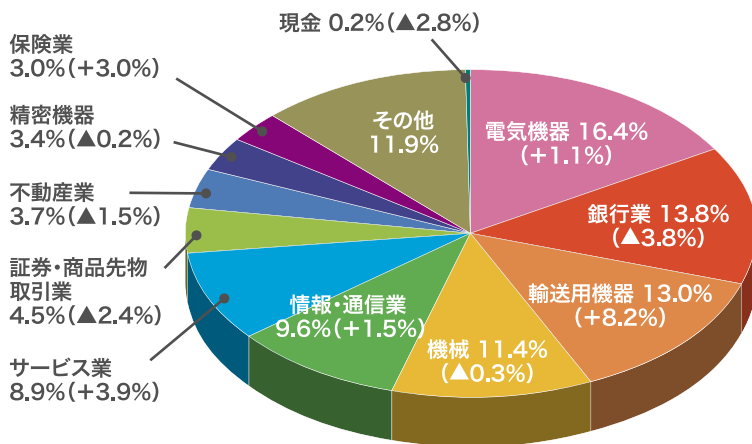
基準価額	12,946円
純資産総額	4,943百万円
受益権総口数	3,818百万口
顧客数	1,365人

ポートフォリオの構成比 (マザーファンド)

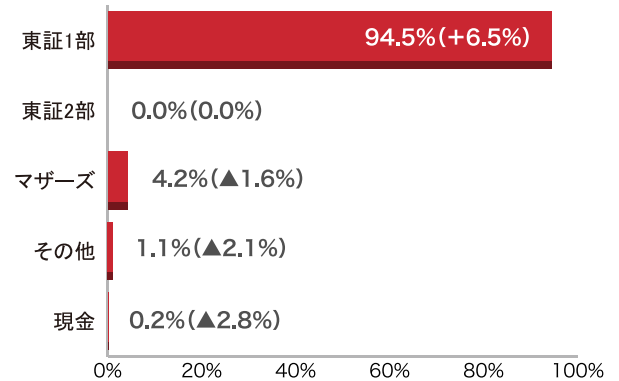
	当月末	前月末比
株式等	99.8%	+2.8%
現金等	0.2%	▲2.8%
構成銘柄	51社	+1社

基準日 2015年8月31日付

業種別構成比 ()内は前月比



市場別構成比 ()内は前月比



- 比率は純資産総額を100%として計算しております。
- 比率は四捨五入の関係で合計が100%にならない場合があります。
- 業種については東証33分類に基づいて記載しております。

組入上位5銘柄の紹介

(2015年7月31日現在)

銘柄名 業種 組入比率	概要
三井住友フィナンシャルグループ 銀行業 6.5%	3メガバンクの一角で、銀行業務を中心に、クレジットカード業務、リース業務、情報サービス業務、証券業務などのさまざまな金融サービスにかかわる事業を展開。経営方針は、最高の信頼を得られ世界に通じる金融グループを目指す。
三井住友トラスト・ホールディングス 銀行業 5.5%	目指す姿は「The Trust Bank」の実現で、メガバンクグループとは一線を画す。傘下に三井住友信託銀行、三井住友AM、日興AMなどを持つ。富裕層基盤を補完する「ダイナースカード」を買収しクレジットカード事業も強化。信託機能を活かしたフィービジネスの拡充を図る。
三菱重工業 機械 5.0%	世界中の社会的課題をものづくりで解決することが使命。「エネルギー・環境」、「防衛・宇宙」、「交通・輸送」、「機械・設備システム」の4つのドメインを持つ。事業規模の拡大、資本効率および純利益水準の向上を目指す。
野村ホールディングス 証券・商品先物取引業 5.0%	日本最大の投資銀行・持株会社。国内ではコンサルティング中心の営業スタイルを強化し、アジアに立脚したグローバル金融サービスグループを目指す。
パナソニック 電気機器 4.5%	松下幸之助が制定した「綱領」が経営の根幹。課題と位置づけた7事業の構造改革を完遂し、事業戦略は売上成長による利益創出に移行。エアコン、ライティング、ハウジングシステム、インフォテインメント、二次電池、パナホームなどの売上高、収益性の改善に注力。

市場概況

8月の株式市場は、月初から株価急落前の18日まではボックス圏(※)の推移となった後、19日からは中国の景気悪化懸念の広がりなどにより6日続落となりました。その後、中国が利下げを発表したことから反転基調となりましたが、日経平均の月間リターンは8.23%の下落となりました。

詳細は以下の通りです。①月初から株価が急落する前の18日にかけてはボックス圏(※)の推移となりました。月初は、市場予想を上回る4-6月期決算を受けて出遅れ感のある内需株が買われたことや、米利上げ見通しを背景とした円安により外需株などが上昇、日経平均は11日に月間最高値20946円(ザラ場)を付けました。しかし11日から3日連続で中国が人民元の基準値を切り下げたことにより、中国景気悪化を再懸念する見方から中国関連銘柄を中心に下落、その後、中国人民銀行が元切り下げは一時的措置と発表しましたが、戻りは限定的となりました。②株価急落局面である18日から25日終値にかけての日経平均は、17日終値比約14%の大幅下落となりました。20日の米FOMC議事録において中国の景気悪化懸念により9月利上げが不透明となっていることが明らかとなったことや、21日発表された8月の中国PMI製造業指数が前月より悪化したことなどにより世界的な株価の大幅下落となりました。24日についても前週末の米株安及び中国が追加緩和措置を実施しなかったことに対する失望感、そしてさらなる円高進行などにより再度急落しました。③その後、25日引け後に中国人民銀行が発表した利下げが好感され、26日は全面高となり日経平均は今年最大の上昇率(+3.2%)となりました。月末にかけても米利上げ可能性の後退や米GDP改定値の大幅上方修正などにより反転基調を継続しました。

(※)箱の中に閉じ込められたかのように一定の価格帯で上下している相場状況のこと

主な株式指数をリターン順に見ると、東証2部(▲6.26%)、JASDAQ指数(▲7.32%)、TOPIX(▲7.38%)、日経JASDAQ平均(▲7.55%)、日経平均株価(▲8.23%)、東証マザーズ指数(▲15.26%)となりました。TOPIX規模別では、スモール(▲4.97%)、ミッド400(▲6.78%)、ラージ70(▲7.88%)、コア30(▲8.16%)となりました。TOPIX業種別株価指数のリターン上位3位は、その他製品(+2.62%)、繊維製品(+2.37%)、パルプ・紙(+1.90%)でした。同下位3位は、鉄鋼(▲14.48%)、倉庫・運輸関連業(▲12.62%)、証券・商品先物取引業(▲12.50%)でした。なお33業種のうち29業種がマイナスリターンになっています。

運用状況

◎8月の主な投資行動

当月の株式等組入比率は月を通して概ね99%程度を維持しましたが、ポートフォリオの構成を大きく変化させました。【下記の番号は市場概況と連動していますので、合わせてご覧ください】

①月初から株価が急落する前の18日にかけてのボックス圏では、7月から堅調な株価推移だったために割高な水準に達していたディフェンシブ(医薬品や住宅関連など)銘柄を売却し、電気機器や機械を買い付けました。買い付けたこれらの銘柄は、7月に中国関連ということで大きく売られており、中長期視点での企業価値に対して割安な水準となっていました。②株価急落局面である18日から25日にかけては、医薬品や銀行、小売、サービス、不動産などの内需・ディフェンシブ銘柄を売却し、自動車銘柄を買い付けました。そして電気機器や機械については同業種内で銘柄入替を実施しました。自動車銘柄は中国景気悪化がアジアから世界へ波及するという過度な見方、及びドル円が116円台まで円高となったことからTOPIX(の下落幅)よりも下落しており、バリエーション(PERやPBRなどの株価指標)から見て非常に割安と判断し組入比率を高めました。電気機器や機械については、同業種内でより割安かつ今後の成長性を期待できる銘柄にシフトしました。具体的には、大手電機メーカーや単純なシクリカル(循環的な景気変動に連動しやすい)銘柄を売却し、今後ニーズが高まる省力化需要の恩恵を受ける電子部品や機械メーカーを買い付けました。③反発局面となった26日から月末にかけては、新興市場がTOPIXよりも強く反発する局面で同市場(マザーズやJASDAQ市場)銘柄や小型株を売却、超大型の割安銘柄を買い付けました。新興銘柄や小型株は大型株に比べて流動性が低く(売買代金が少ない)、足元のような状況では株価変動率が高いため、リスクコントロールの観点から一定の水準まで組入比率を引き下げました(新興市場組入比率前月末9.1%→今月末5.4%)。この局面において買い入れた超大型の割安銘柄は、コーポレートガバナンス・コードの導入により「稼ぐ力」を取り戻すことで中長期的な企業価値の増大を期待する銘柄です。

◎8月のファンド月間リターンとその要因

当月末の基準価額は12946円(7月末14177円)、ファンドの月間リターンは8.68%の下落となりました。当ファンドのリターンにマイナス寄与した主な業種は、銀行業(当月末保有比率13.8%)や証券・商品先物取引業(同4.5%)などであり、銀行業指数の月間リターンは9.57%の下落、証券・商品先物取引業指数は12.50%の下落となっています。なお参考情報としまして、当ファンドにベンチマークはありませんが、TOPIXは7.38%の下落となっており当ファンドはTOPIXを1.30%下回りました。

◎8月末のポートフォリオ

当月末の株式等組入比率は99.8%(前月末比+2.8%)に引き上げており、逆にキャッシュ比率は0.2%(同▲2.8%)に引き下げています。市場別構成比率では、東証1部94.5%(同+6.5%)、東証マザーズ4.2%(同▲1.6%)、JASDAQ1.1%(同▲2.1%)となっています。業種別では、トップが電気機器16.4%(同+1.1%)、次いで銀行業13.8%(同▲3.8%)、輸送用機器13.0%(同+8.2%)としました。組入銘柄数は51銘柄(同+1)となっています。

◎8月の資金流入状況と御礼

当ファンドへの資金流入(お客様から新たにお預かりした資金)は、当月約4.5億円(当マザーファンド純資産比8.1%)となりました。この水準は2015年1月～7月までの月間平均が約2.8億円ですので、1.6倍も上回ることとなります。特に株式相場が大きく下落した21、24、25日には、約1.5億円(同2.9%)もの資金流入がありました。普段以上の多額の資金を新たにお預けいただいたことに、厚く御礼申し上げます。こうした株価の急落局面における資金流入は、下落している銘柄を売却せずに投資妙味の高い銘柄を買い付けることができるので、ファンドの運用において極めてプラスとなります。新たにお客様からお預かりした資金については、速やかに株式を買い付けており、株式組入比率は高位水準(概ね99%程度)を維持しました。

これまで通り日本株市場の見方は中長期的に強気を継続します。今後も引き続き中長期的な視点で、定性評価(「変化し始めた企業」・「変化にチャレンジする企業」)及び定量評価(「株価が割安な企業」・「割高でない成長企業」)の観点から厳選投資を行います。引き続き、お客様の資産形成に貢献すべく、全力で運用を行います。今後ともよろしくお願いたします。

● 組入比率とその内訳、組入銘柄に関する記載は、マザーファンドについてとなります

2015年8月5日 運用部長 糸島 孝俊

II メディア掲載

日付	掲載メディア	ニュース
8月1日	TV東京	マネーの羅針盤 プルベアコンパスに糸島が出演しました
8月1日	日経電子版	「ストックオプション、社員の行使増加」で糸島がコメントしました
8月4日	日経電子版	日経ヴェリタスセレクト「カリスマ社長が去る時、リスクかチャンスか」で伊井がコメントしました
8月12日	日経電子版	「株、中国人民元切り下げがあぶり出した相場観」で糸島がコメントしました
8月15日	日経電子版	マネーブログカリスマの直言で「かなえないちいさな株主たちの思い」と題し渋澤が寄稿しました
8月21日	日経マネー	「ジュニアNISA入門」で伊井がコメントしました
8月24日	毎日新聞	東京版19面「金融教育は小学生から」で「こどもトラスト」セミナーが紹介されました
8月24日	日経新聞(夕刊)	3面「需給関係は良好 2万円台回復も」で糸島がコメントしました
8月26日	日経新聞	17面「株、信用評価損が急拡大」で糸島がコメントしました
8月31日	日経電子版	日経ヴェリタスセレクト「投資のプロが伝授 株価急落、嵐をしのぐ心構えは」で伊井がコメントしました
8月31日	日経CNBC	日経ヴェリターストックに渋澤がレギュラー出演しました

セミナー案内

セミナー名	日付	時間	場所
【水戸開催】<CYBERDYNE の CFO も登壇!>凄腕 ファンドマネージャーが見通す 2020vision セミナー	10月8日(木)	18:30~21:00	茨城県水戸市(茨城県開発公社ビル)
「ザ・2020ビジョン」ファンド説明&運用報告会	10月9日(金)	19:00~20:45	東京都千代田区(船井セミナールーム)
	10月14日(水)	19:00~20:45	東京都千代田区(船井セミナールーム)
	10月15日(木)	19:00~20:45	石川県金沢市(石川県女性センター)
	10月16日(金)	19:00~20:45	京都府京都市(メルパルク京都)
	10月17日(土)	10:00~11:45	愛知県名古屋市 (オフィスパーク名駅カンファレンスセンター)
【女性限定】はじめてのコモンズ	9月9日(水)	14:00~16:00	東京都千代田区(コモンズ・オフィス)
30才からの“はじめてのコモンズ” (お子様連れ可)	9月15日(火)	10:30~12:00	東京都千代田区(コモンズ・オフィス)
	10月29日(木)	13:30~15:00	
30才からの“はじめてのコモンズ”	9月17日(木)	19:00~21:00	東京都千代田区(コモンズ・オフィス)
	10月7日(水)		
60才からの“はじめてのコモンズ”	9月25日(金)	13:30~15:30	東京都千代田区(コモンズ・オフィス)
	10月23日(金)		
パパとママのためのこどもトラストセミナー (お子様連れ可)	9月11日(金)	10:30~12:00	東京都千代田区(コモンズ・オフィス)
	10月21日(水)	13:30~15:00	
「コモンズ 30 ファンド」「ザ・2020ビジョン」 ファンド説明会	9月12日(土)	14:00~16:00	東京都千代田区(コモンズ・オフィス)
	10月10日(土)		
	10月27日(火)	19:00~21:00	
くつろぎ BAR	9月16日(水)	18:00~20:00	東京都千代田区(コモンズ・オフィス)
	10月21日(水)		
コモンズ 30 塾『女性の活躍』セミナー ダイキン工業	9月11日(金)	19:00~21:00	東京都新宿区(神楽サロン)
第7回社会起業家フォーラム	10月3日(土)	14:00~17:00	東京都文京区(文京学院大学)
こどもトラストセミナー「かきくけコモンズ」<く> しゃちょうさんに手紙をかこう	10月18日(日)	10:00~11:30	東京都世田谷区 (ウイズダムアカデミー田園調布自由が丘校)

※セミナーの詳細、お申し込みは弊社ウェブサイトまたはコールセンターにお願いいたします。

<http://www.common30.jp/seminar/> 03-3221-8730 (コールセンター、平日午前9時~午後5時受付)

ザ・2020ビジョンの費用について

購入時手数料	販売会社が、別途定める購入申込手数料を申し受ける場合があります。
換金手数料	ありません。
運用管理費 (信託報酬)	ファンドの純資産総額に年1.242%(消費税込)を上限とした率を乗じて得た額とします。なお、基準価額は、信託報酬控除後のものです。信託報酬は、純資産総額の一定の増加により逡減する仕組みになっています。
信託財産留保額	ありません。
その他の費用 ・ 手数料	当ファンドに組み入れる有価証券等を売買する際の売買委託手数料およびこれにかかる消費税等相当額などの実費が投資信託財産より控除されます。また、目論見書・運用報告書等作成費用、監査費用、信託事務に要する諸費用等として、純資産総額の0.108%(消費税込)を上限として投資信託財産より控除されます。

※上記の手数料(費用)等の合計額については、保有期間に応じて異なりますので、上限額等を事前に示すことができません。

ザ・2020ビジョンのリスクについて

当ファンドは、値動きのある有価証券等に投資するため、その基準価額は変動します。したがって、お客さま(受益者)の投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により損失を被り、投資元本を割込むことがあります。委託会社の運用により生じるこうした基準価額の変動による損益は、すべてお客さま(受益者)に帰属します。なお、投資信託は預貯金と異なります。

※リスクの要因は、上記に限定されるものではありません。詳しくは投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

お申込みメモ

信託設定日	平成2013年12月27日
信託期間	無期限(ただし、ファンドの残存口数が10億口を下回った場合等には信託期間の途中で信託を終了させることがあります。)
決算日	原則として毎年12月18日(休業日のときは、翌営業日を決算日とします。)
収益分配	毎決算時に、委託会社が基準価額水準、市況動向等を勘案して決定します。ただし、分配対象額が少額の場合には分配を行わないことがあります。当ファンドは分配金再投資専用です。よって、分配金は税金が差引かれた後、自動的に再投資されます。なお、収益の分配に充てなかった利益については、運用の基本方針に基づいて運用を行います。
購入単位	販売会社によって異なります。詳しくは販売会社にお問い合わせください。
購入価格	購入申込受付日の基準価額
換金単位	販売会社によって異なります。詳しくは販売会社にお問い合わせください。
換金価額	換金申込受付日の基準価額とします。
換金代金の 支払い開始日	換金申込受付日から起算して5営業日目にお支払いします。
申込締切時間	購入・換金ともに原則毎営業日の午後3時までです。 午後3時を過ぎてのお申込みは、翌営業日のお申込みとして取扱います。

お問い合わせ先

■コールセンター (受付時間/平日 午前9時~午後5時)

03-3221-8730

■ウェブサイト

<http://www.common30.jp/>

◆本資料は、コモンズ投信が投資家の皆さまに情報提供を行なう目的で作成したものであり、投資勧誘を目的に作成されたものではありません。◆このレポートは、信頼性が高いと判断された情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。記載された意見・見通し等は作成日時点のものであり、将来の株価等の動きやファンドの将来の運用成果を保証するものではありません。また、将来予告なしに変更される場合もあります。◆投資信託の取得を希望される方は、必ず目論見書の内容をご確認のうえ、ご自身の判断でお申し込みください。

金融商品取引業者
関東財務局長(金商)第2061号
加入協会 一般社団法人投資信託協会

コモンズ投信株式会社

〒102-0093
東京都千代田区平河町2-4-5 平河町Kビル5階